

第39回

うつのみやこども賞だより

令和4年度 7回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『あたしとひぐっちゃんの探偵日記』

櫻井 とりお／著 (小学館)



令和4年12月4日

～読んだ本の感想より～

- ひったくり犯をつかまえているひぐっちゃんがかっこいいと思った。
- 友人のえん罪を証明するためお菓子教室をやったり、調査していて、とてもおもしろかった。
- ひぐっちゃんが登場した時、不しん者だと思ったのでおどろきました。
- 最初、ひぐっちゃんのみずきの関係はケンカしばかりのものでしたが、物語が進んでいくうちに二人の支え合いが見えてきて、とてもおもしろかった。
- お菓子づくりとかいろいろなことを主人公たちはしていて、読んでいてあきない本だった。
- 最初、五十嵐が言っていた、不しん者に、タコ公園で出会った時、相川があんなのを守った所がとてまかっこよかった。
- とてもおもしろかった。

『ぼくらは少年鑑定団！』 くすのき しげのり／作 (講談社)

- 子どもだけで鑑定団を作るなんてすごいと思った。
- 究たちは少年鑑定団を作りトレジャのおかげで縄文土器を見つけ、縄文土器をかんせいさせることができるとてもすごいと思った。
- そこらへんで土器が見つかることがおどろいた。
- ずっとさがしていたかけらをみつけたとき、よかったなと思った。
- 子どもだから出来ないこともあると思うけど、子どもの影響力は大きいんだなあと感じた。昔の文化を大切にしたいと思わせる本だった。

『コカチン』 佐和 みずえ／作 (静山社)

- コカチン姫のかたに矢が当たってしまったり鬼女にさらわれてしまったりしてあぶない場面があってドキドキしたが助かって良かったと思いました。
- 女性でしかも大帝国の姫なのにとても勇かんで前むきなのがすごいと思った。
- パルスが王子だったということにおどろいたし、コカチン姫が本当に好きな人とけっこんできることに良かったなと思いました。
- どんな困なんにも立ち向かうコカチンの勇気に感動しました。

『ふたりのえびす』 高森 美由紀／作 (フレーベル館)

- キャラをかぶることは意味がないと気づかせてくれる物語。
- ふたりのかんけいや、王子と太一のさがすごい。
- 伝とうを守ることは大切なんだと思った。練習をたくさんして、成功して良かった。
- 太一と王子（優希）がどンドンしゃべるようになっていくのがおもしろかった。
- 本当の自分を見つめ直す太一と優希の姿が印象的だった。